

平成 22 年度 事業 報告 書

平成 22 年 4 月 1 日から

平成 23 年 3 月 31 日まで

I 事業概要

平成 22 年度は、第 3 次中期計画（平成 22 年度～平成 24 年度）の初年度にあたり、計画の基本方針に沿って事業を行った。

1 MICE 事業部門

国・観光庁が平成 21 年に MICE(*)に関する開催・誘致事業、施設の整備のための調査、人材育成支援等、施策の強化・総合化を盛り込んだ「MICE アクションプラン」を策定した。また、APEC や生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の開催される平成 22（2010）年を「Japan MICE Year」に設定し取組みを始めた。

当財団では、第 3 次中期計画において「コンベンションから MICE へ」を掲げたところであり、平成 22 年度は、コンベンションの中でも国際団体連合（UIA）基準(*)に合致する国際会議に重点を置きながら、地域知名度向上の効果、経済波及効果、国際化促進効果、地域活性化の効果等が期待できる、1,000 名規模以上の大型学術会議、社会影響力の大きい政府間会議や民間レベルの経済会議、海外の大型企業インセンティブ、大型イベントなどを中心に、国内外の主催団体等へ積極的な誘致活動を展開した。

また、国・千葉県のインバウンド施策などの外客誘致事業と連動し、千葉県、国際会議観光都市である千葉市、成田市、木更津市のほか、平成 22 年 9 月に新たに認定された浦安市、幕張メッセ、かずさアーク、会員ホテルなどの施設のみならず、県内の大学や経済界、会議等のテーマに応じた関係機関・関係団体会員等との連携を強化した誘致活動を行い、「チーム千葉」として、国際交流の拡大及び地域経済の活性化に貢献する MICE の誘致に戦略的に取り組んだ。

このほか、MICE 主催者及び参加者に提供する質の高い、きめ細かな支援サービスを通じ、千葉県の持つ魅力を積極的にアピールして、経済波及効果の大きい MICE が引き続き開催されるよう支援を行った。

さらに、海外に効果的に PR するために、国、周辺自治体等との連携のもとに、「Tokyo Bay Area」としての千葉ブランドを積極的に活用、PR した。

(*)MICE（マイス）とは？

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、イベント、展示会・見本市（Event/Exhibition）の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

(*)UIA 基準の国際会議…次のいずれかを満たす会議

(1) 国際機関・国際団体の本部が主催又は後援した会議

(2) 国内団体もしくは国際団体支部等が主催した会議で、①参加者数 300 人以上、②参加国数 5 カ国以上、③開催期間が 3 日以上、の条件を満たす会議

2 国際交流部門

千葉県における中核的な機関として、県内の民間交流団体をはじめボランティア、地域の国際交流協会、大学、行政機関等と連携を図り、県民や民間交流団体による国際理解や国際交流・協力活動の促進、在住外国人への支援を通じた多文化共生の実現等を図った。

主な活動として、民間交流団体活動や国際交流ボランティアなどに関する各種情報提供を行うとともに、様々な関係団体との連絡会議を開催した。

また、在住外国人が安心して生活できるよう、外国人テレホン相談や無料法律相談、地震・台風・火事の体験ツアーなどを実施した。

さらに、国際交流ボランティアの資質向上に向け、日本語ボランティア講座やコミュニティ通訳等の講座を行うとともに、県民等による国際理解や国際交流・協力への気運を醸成するため、国際理解講座やちば出前講座などを開催した。

II 主要事業

1 チーム千葉による MICE 誘致・支援の実施

(1) MICE の誘致・開催実績

① 平成 22 年度の MICE 誘致実績及び開催実績並びに経済波及効果額は、次のとおりとなり、国際会議の誘致・開催に係る目標を達成した（□部分）。（単位：件）

種別		年度	平成 20 年度 誘致実績	平成 21 年度 誘致実績	平成 22 年度		
					誘致実績	開催実績	
M	企業ミーティング		2	1	2	0	
I	インセンティブ		0	2	1	1	
C	国際会議	40	34	JNTO 基準 国際会議 (*)	目標	35	29
					実績	38	48
	国内会議	107	98	JNTO 基準国際 会議以外の実績		33	40
E	展示会・イベント		12	10	10	12	
合計			161	145	84	101	
経済波及効果額（百万円）			10,600	13,500	9,697	10,165	

(*) JNTO（日本政府観光局）基準の国際会議…次を満たす会議

(1) 国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体が主催する会議

(2) ①参加者総数が 50 名以上、②参加国が日本を含む 3 カ国以上、③開催期間が 1 日以上

(参考) 県内のコンベンション開催状況

期 間	県内開催コンベンション件数	
		うち JNTO 基準国際会議開催件数
平成 22 年 1 月～12 月	334 件	104 件
平成 21 年 1 月～12 月	317 件	100 件

② 誘致に成功した主な MICE

ア 国際会議

会議名	開催時期	参加者数	開催場所
APEC 交通ワーキンググループ会合	平成 22 年 10 月	300 名	ヒルトン東京ベイ
日本地球惑星科学連合 2011 年大会	平成 23 年 5 月	5,000 名	幕張メッセ
第 9 回国際中欧・東欧研究協議会 世界大会（ICCEES）	平成 27 年 7 月	2,000 名	幕張メッセ

イ 国内会議

会議名	開催時期	参加者数	開催場所
第5回日本緩和医療薬学会年会	平成23年9月	2,000名	幕張メッセ
第112回日本外科学会定期学術集会	平成24年4月	12,000名	幕張メッセ、ホテルニューオータニ幕張
日本免疫学会 第42回学術集会	平成25年12月	2,500名	幕張メッセ

(2) 誘致拡大のための推進体制の強化

① 国内誘致活動

千葉県、国際会議観光都市（千葉市、成田市、木更津市及び浦安市）、地元大学、関係機関等との連携を強化し、協働誘致活動等を実施した。

ア 主な誘致活動

(ア) 企画書・見積書の提出等

国際ゴム技術会議 等

(イ) 国内外デシジョンメーカー（MICE開催決定権者）の視察受入れ及び招聘
APEC交通ワーキンググループ^o会合、日本免疫学会 第40回学術集会、ハーバライフアジア大会、世界作業療法士連盟（WFOT）2014代表者会議 等

イ 会議主催者等を対象としたセミナーの実施（平成22年7月）

「千葉MICEサロン」を開催し、千葉県がMICE開催適地であることをPRした。

② 海外誘致活動

ア 海外展示会出展

(ア) IT & CM China 2010（中国・上海）（平成22年4月）

(イ) IMEX2010（ドイツ・フランクフルト）（平成22年5月）

(ウ) CIBTM2010（中国・北京）及びJNTO主催上海インセンティブセミナー（中国・上海）（平成22年8月～9月）

イ VJ地方連携事業

（財）東京観光財団、（財）横浜観光コンベンション・ビューロー及び国土交通省と連携して「Tokyo Bay Area」のブランド化施策として、「東京ベイエリア」MICEガイド（中国語、韓国語）を作成した。また、中国及び韓国の専門雑誌に広告を掲載した。

③ 国際会議観光都市との連携

ア 「国際ミーティング・エキスポ（IME2010）」への出展（平成22年12月）

浦安市の協力を得て、当財団ブース内に浦安市ブースを設置した。

イ 「Meet Japan」（JNTO主催事業）との連携（平成23年2月）

海外のキーパーソン（MICE開催地の決定に影響力を持つ主催者等）等を招聘

し、千葉市、成田市、浦安市の視察等を行った。

④ MICE 支援事業

- ア コンベンション開催助成金の交付（3件）
第6回国際ホルモン依存性癌シンポジウムほか2件に計50万円交付。
- イ 主催者のニーズに合わせた開催支援の実施（105件）
千葉県の名産・特産品等の販売手配、伝統芸能（太鼓、能、琴等）、学会オリジナルロゴ入りコンブレスバッグの製作等千葉県独自の支援プログラム、アトラクション等を実施した。
- ウ 幕張オフィシャルマップの作成

2 国際交流・国際協力の推進と多文化共生社会づくり

(1) 中核的組織としての機能強化

① さまざまな情報の提供

- ア ホームページにおける生活情報等の提供
- イ 「国際交流伝言板」による交流事業の情報提供（3回）
- ウ 会報「国際交流つうしん」の発行（3回）
- エ 千葉県外国人学生住居アドバイザー（39店）による情報提供、助言の実施

② 在住外国人支援事業

- ア 外国人テレホン相談事業（受託事業）
(英語・スペイン語・中国語、相談件数1,038件)
- イ 在住外国人のための無料法律相談（11日、延べ39名）
- ウ 在住外国人のための無料総合相談会（平成23年1月、延べ25名）
- エ サバイバル日本語講座（2講座）
- オ 地震・台風・火事の体験ツアーの実施（受託事業）（平成22年10月、25名）
- カ 多文化共生サポート制度の創設と運営

(2) 多文化共生時代のネットワークづくり

① 国際交流ボランティア制度の運営

語学ボランティアほか3ボランティア登録数 延べ1,636
(平成23年3月31日現在)

② ボランティア育成・国際理解促進のための各種講座の開催

平成22年度の各種講座受講者数の目標を達成した。

	国際理解促進		ボランティア向け	
	目標	実績	目標	実績
平成22年度	3講座 250人	3講座 364人	3講座 100人	3講座 111人

3 「魅力ある千葉」を国内外へ発信

(1) 千葉県の有する魅力を活用した事業展開

① 各種媒体による情報発信

ア 広報紙 (Face to Face 2回、ぶらりネット CHIBA 6回) の発行

イ ホームページ

ウ CCB-IC ニュース (賛助会員向けニュース) (6回)

② フィルムコミッション事業 (受託事業)

「夏の恋は虹色に輝く」(南房総市他)などの県内撮影を支援し、千葉県の知名度の向上等を図り、観光客の来葉促進等に寄与した。

撮影依頼件数 176 件 (うち県内撮影件数 39 件)

③ 「VISIT JAPAN トラベルマート 2010」参加支援業務 (受託事業)

④ 外国人向け観光マップ「Map of Chiba」の情報修正業務 (受託事業)

(2) 海外向け広報活動の拡充

海外のメディア、MICE 主催者等に向けて千葉県の魅力を発信した。

① プレスリリース (5回)、英文 E-ニュース (6回)

② ホームページ (英語版) のリニューアル (公表は平成 23 年度)

③ アメリカの MICE 専門誌 Convene に広告を掲載。

④ 「Chiba MICE Ambassador」による誘致促進と PR

Chiba MICE Ambassador のレイ・コプチンスキ氏を通じて MICE 開催地としての千葉県の魅力を PR した。

(3) 異業種交流の促進

当財団の存在意義や活動を PR するほか、賛助会員及び賛助会員加入希望者との異業種交流の場として、会員交流会を開催した。

① 千葉 MICE サロン (再掲)

② 会員交流会 (平成 23 年 2 月)

4 大学等との連携による事業強化

(1) 大学、研究機関、関係団体、行政等との MICE 誘致、展示会協働出展を実施した。
(再掲)

(2) 地元大学や自治体国際化協会等との連携促進による多文化共生社会等への理解促進を行った。

5 公益財団法人への移行と自立型経営への転換

(1) 平成 24 年度を目途に公益財団法人へ移行

- ① 平成 23 年 2 月 28 日に最初の評議員の選任方法について関東運輸局長及び千葉県知事の認可を得た。
- ② 平成 23 年 3 月 10 日の理事会において、公益財団法人移行後の定款（案）について承認を得た。

(2) 賛助会員の獲得

平成 23 年 3 月 31 日現在の賛助会員数及びその内訳は次のとおりである。

	平成 23 年	平成 22 年	増減数
賛助会員数（各年 3 月 31 日現在）	1,051	1,063	△12
コンベンション	357	369	△12
団体会員（団体）	355	367	△12
個人会員（人）	2	2	0
国際交流	694	694	0
団体会員（団体）	99	102	△3
個人会員（人）	595	592	3

新規賛助会員数　コンベンション会員　12 団体、国際交流会員　2 団体、64 人

(3) 組織体制の整備及び経費削減

組織規程、処務規程等を改正し、迅速な意思決定ができるようにするなど、事業の効率化を図った。

また、職員給与規程等を改正し、経費削減を図った。

(4) 組織内部の相互けん制の強化

明らかになった不適正経理処理問題に対し、厳正に対処した。

また、経理規程、処務規程等を改正し、組織内部の相互けん制の強化及び事務全般の適正化を推進するとともに、職員のコンプライアンス意識向上のための研修会を開催するなどの改善策、再発防止策を実施した。

以上については、平成 22 年度第 2 回及び第 3 回の理事会及び評議員会において報告を行った。

Ⅲ 実施事業

1 MICE 事業部門

(1) MICE 誘致事業

① MICE 誘致活動

ア 国内での個別誘致活動

激化する地域間競争に打ち勝ち、千葉県での MICE 開催に向けて、国、学会、協会、業界団体、大学関係者、企業等の MICE 主催者を対象に、千葉県、国際会議観光都市（千葉市、成田市、木更津市及び浦安市）、地元大学（千葉大学、千葉工業大学、神田外語大学、千葉商科大学等）及び会議等のテーマに応じた関係機関・関係団体会員等との連携を強化し、協働誘致活動等を実施することにより、「チーム千葉」として効果的な誘致活動を展開した。

<主な誘致活動>

コンベンション名	協働誘致活動実施団体	活動内容
第 31 回国際電波科学連合総会	千葉大学、幕張メッセ	企画書・見積書
国際医学生連盟（IFMSA）世界総会	千葉県、千葉市、千葉大学、（財）日本ユニセフ協会千葉県支部	企画書、招聘状
国際抗ウイルス学会（ICAR2012）	千葉工業大学、幕張メッセ	企画書・見積書 幕張視察
第 129 回国際航空運送協会（IATA）スケジュール会議	千葉県、成田国際空港㈱、浦安市、ヒルトン東京ベイ等	企画書・見積書
自動車制御に関する国際シンポジウム（IFAC AAC）	千葉県、幕張メッセ等	プレゼンテーション実施
国際ゴム技術会議	千葉県、三井化学㈱、幕張メッセ	企画書・見積書

<主な連携強化活動>

連携先	面談者	内容
地元大学	学長、理事、大学教官等	情報収集及び交換
千葉銀行	海外支店長等	情報交換会の実施 (平成 22 年 4 月、10 月) ・当財団海外事業について ・当財団誘致活動について ・千葉銀行海外現地情報について

イ 会議主催者等を対象としたセミナーの実施

(ア) 「千葉 MICE サロン」(主催者説明会)の開催

MICE 主催者に対して、千葉県が MICE 開催適地であることを PRするとともに、賛助会員に対して、新たなビジネスチャンスを創出できるよう、千葉 MICE サロンを開催した。

- a 開催日：平成 22 年 7 月 16 日
- b 会場：かずさアカデミアホール
- c 集客活動：学協会、IME09 来場者、在日大使館等へダイレクトメールの送付、訪問、電話等により来場を勧誘し、集客を図った。
- d プログラム：
 - (a) 講演会 「世界一の超記憶法」
講師：原口 證 (円周率 10 万桁暗記世界記録保持者)
 - (b) 説明会 千葉県のアフターコンベンションの魅力
かずさアカデミアホールの視察
JNTO の支援
 - (c) 交流会 主催者と賛助会員企業等による商談会及び情報交換会
 - (d) その他 アトラクションとして地元久留里城甲冑会による武者行列を実施
- e 参加者数：163 名 (うち賛助会員等 87 名)

(イ) 「国際ミーティング・エキスポ (IME2010)」への出展

日本で唯一の MICE 専門トレードショー「第 20 回国際ミーティング・エキスポ (IME2010)」において、当財団ブース内に賛助会員企業と浦安市の特別協賛ブースを設け、一体となって千葉県の魅力を PR した。

- a 開催日：平成 22 年 12 月 7 日～8 日
- b 会場：東京フォーラム
- c 集客活動：千葉 MICE サロン参加者、IME10 来場予定者、学協会等へ個別訪問、電話や電子メール等により来場を勧誘し、集客を図った。
- d 事業内容：MICE 開催情報等のアンケート回答者の中から抽選により、千葉県のおせち料理、伊勢エビ、ホテル宿泊券、ゴルフプレー券、地焼酎等をプレゼントし、千葉県の魅力をアピールした。
- e 来場者数：全体 3,021 名、当財団ブース 226 名

ウ MICE 施設連絡会議等の実施

MICE 施設及び国際会議観光都市と当財団との間で、情報や課題を共有し、効果的な協働誘致を行うため、「MICE 施設連絡会議」等を千葉県国際交流センター研修室において3回開催した。

開催日	主なプログラム	参加団体数	参加者数
平成 22 年 5 月 11 日	(ア) 平成 22 年度事業概要について (イ) MICE 統計について	29 団体	30 名
11 月 30 日	(ア) IME2010 の協働出展について (イ) Meet Japan について	15 団体	15 名
平成 23 年 1 月 14 日	(ア) Meet Japan について (イ) 県内コンベンション統計について	5 団体	8 名
3 月 15 日	(ア) 中国における最新の MICE 事情について (イ) 平成 23 年度事業概要について	〔東日本大震災に伴い中止〕	

エ 海外での誘致活動

海外トレードショーや現地商談会に参加し、直接海外の MICE 主催者及び関係機関に対し誘致活動を行った。

- (ア) IT & CM China 2010 (MICE 専門見本市)
 - a 開催時期：平成 22 年 4 月 5 日～10 日
 - b 開催地：上海 (中国)
 - c 成果：商談件数 31 件
- (イ) IMEX2010 (欧州最大の MICE 専門見本市)
 - a 開催時期：平成 22 年 5 月 23 日～29 日
 - b 開催地：フランクフルト (ドイツ)
 - c 成果：商談件数 25 件
- (ウ) CIBTM2010 (MICE 見本市) 及び JNTO 主催上海インセンティブセミナー
 - a 開催時期：平成 22 年 8 月 29 日～9 月 5 日
 - b 開催地：北京及び上海 (中国)
 - c 成果：商談件数 CIBTM 35 件
上海インセンティブセミナー 9 件

オ 国内外デシジョンメーカーの視察受入れ及び招聘

(ア) デシジョンメーカーの視察受入れ

受入団体名	受入時期	内容
APEC 交通ワーキンググループ 会合	平成 22 年 4 月 15 日	舞浜視察
日本免疫学会 第 40 回学術集会	平成 22 年 4 月 16 日	幕張・舞浜視察
国際抗ウイルス学会 (ICAR2012)	平成 22 年 9 月 26 日～28 日	幕張視察
ハーバライフアジア大会	平成 22 年 10 月 20 日	幕張視察
自動車制御に関する国際シンポジウム (IFAC AAC)	平成 23 年 1 月 11 日	幕張視察
世界作業療法士連盟 (WFOT) 2014 代表者会議	平成 23 年 2 月 15 日	かずさアーク、幕張視察
第 10 回アジア太平洋タバコ対策会議 (APACT 10)	平成 23 年 3 月 8 日	幕張メッセ視察

(イ) 「Meet Japan」 (JNTO 主催事業) との連携

海外からキーパーソンを招聘し、県内の視察、プレゼンテーションの実施により、千葉県開催を働きかけた。

特に浦安市の協力により、同市の魅力を強力に PR した。

- a 視察時期：平成 23 年 2 月 26 日～28 日
- b 視察場所：浦安エリア～幕張エリア～千葉駅前～成田エリア
- c 視 察 者：国際会議等キーパーソン 4 名、日本側主催者 4 名及び JNTO ニューヨーク担当者 1 名
- d 受入会議主催団体の状況：

会議・団体名	開催時期	開催規模
ユネスコ国際ダンス会議	平成 25 年春	1,000 名
世界花会議	平成 25 年 10 月	300 名
知能工学システムに関する国際会議	平成 25 年秋	300 名
ハミルトングループ	平成 25 年秋	200 名

② MICE 市場調査

MICE 情報の収集・調査及びデータベースを更新し、県内開催の MICE の実態を把握するとともに将来誘致に結び付ける活動を行った。

ア 県内開催コンベンション情報の収集

Web 検索をはじめとして様々な方法により、県内のコンベンション統計調査を実施した。

期 間	県内開催コンベンション件数	
		うち JNTO 基準国際会議開催件数
平成 22 年 1 月～12 月	334 件	104 件
平成 21 年 1 月～12 月	317 件	100 件

イ 「CCB-IC 誘致データバンク」の構築と「誘致ターゲットリスト」の作成

- (ア) 国際会議協会 (ICCA^(*)) による国際会議データベースから日本での開催可能性のある国際会議約 1,500 件を抽出し、「CCB-IC 誘致データバンク」を構築した。

(*)ICCA : International Congress and Convention Association の略称。アムステルダムに本部を置き、国際会議開催情報を収集し、関係団体と相互に情報交換することにより産業発展の促進を図っている。平成 23 年 3 月 31 日現在世界 86 カ国 900 を超える機関が加盟している。

- (イ) Web 検索等あらゆる方法を活用し、MICE 開催情報 1,745 件収集し、「誘致ターゲットリスト」を作成した。

③ 「Chiba MICE Ambassador」による誘致促進と PR

千葉県を MICE エリアとして国内外に PR する“親善大使”「Chiba MICE Ambassador」のレイ・コプチンスキ氏に、随時千葉県に関する情報提供を行い、ラスベガスで開催された PCMA (Professional Convention Management Association の略称。MICE トレードショー) 等において、MICE 開催地としての千葉県の魅力を積極的に PR してもらった。また、「国際ソロプチミストアメリカス」の主催者へ誘致活動を行ってもらった。

④ MICE 主催者等への情報提供

MICE 主催者に対し、ホームページ、ニュースレター、専門誌上等において千葉県で開催することの優位性を PR し、誘致の促進を図った。

また、平成 22 年度より誘致の効率化・迅速化を図るため、開催情報を賛助会員ホテル・施設に提供し、直接主催者に対し誘致を行ってもらい、開催に結び付けた。

⑤ 行政・大学及び MICE 関係団体との連携

ア VJ 地方連携事業

「東京ベイエリア」MICE ガイド (中国語、韓国語) の作成

(財) 東京観光財団、(財) 横浜観光コンベンション・ビューロー及び国土交通省と連携し、「東京ベイエリア」MICE ガイド (中国語、韓国語) を作成した。また、中国及び韓国の専門雑誌に広告を掲載した。

- (ア) 名 称：「東京ベイエリア」MICE ガイド
- (イ) 作成部数：中国語 10,000 部、韓国語 5,000 部
- (ウ) 配布先：中国、韓国のミーティングプランナー、MICE 展示会や商談会、メディア等
- (エ) 広告掲載：中国－商務旅行（8月号）、韓国－Forbes（9月号）

イ 「観光立県千葉推進本部国際会議等誘致推進部会」への参加

MICE 誘致に向けて、千葉県ほか関係機関が連携して取り組むために、千葉県が設置した部会に参加し、当財団の誘致活動への積極的な協力を要請した。

- (ア) 開催日：平成 22 年 7 月 9 日
- (イ) 会議内容：当財団の活動方針について
国際会議等の誘致状況について
国際会議誘致の流れと千葉県における事例 等

ウ 千葉県外国人観光客誘致促進研究会 平成 22 年度総会への参加

インバウンド誘致のために県内の関係団体・施設が連携して取り組むために設置した研究会に参加した。

- (ア) 開催日：平成 22 年 7 月 23 日
- (イ) 会員数：105 団体（宿泊施設、観光レジャー施設、観光協会等）

エ セミナー・研修会等への参加

国内外の MICE 関係団体に加入し、海外コンベンションビューローや施設との情報交換、セミナー又は研修会への参加により、誘致に必要な MICE 情報の収集及び最新の MICE 動向を把握した。

名称	主催団体	開催時期	内容
MICE セミナー・初級者・中上級者編	JNTO	平成 22 年 5 月 31 日 6 月 1 日 8 月 3 日	MICE 誘致に関する教育セミナー
JCCB 総会	JCCB	6 月 21 日	総会と情報交換会
日本 PCO 協会総会	日本 PCO 協会	7 月 2 日	総会と情報交換会
第 3 回 MICE 推進協議会	観光庁	12 月 1 日	Japan Mice Year のこの 1 年の取組みの総括等
第 2 回展示会講座	展示会講座事務局	平成 23 年 1 月 27 日	展示会における国際力の向上
JNTO MICE セミナー	JNTO	2 月 3 日	MICE 誘致に関する教育セミナー
国際会議主催者セミナー	JNTO	3 月 3 日	国際会議誘致に関するセミナーと情報交換会
日展協 特別講演会	日本展示会協会	3 月 4 日	展示会に関する教育セミナー

(2) MICE 支援事業

① MICE 開催支援

ア 県内開催 MICE に対する支援状況

MICE 主催者及び参加者に対し、開催地域と連携し、地域の活性化に結びつくような質の高い、きめ細かな企画支援を実施した。

	国内会議	国際会議等	展示会・イベント	合計
支援 MICE 件数	15 件	11 件	12 件	38 件
支援種別件数	27 件	65 件	16 件	108 件

イ コンベンション開催助成金の交付（3 件）

公共性及び経済波及効果の高いコンベンションとして、開催助成金交付審査会で決定を得た、第 6 回国際ホルモン依存性癌シンポジウムのほか 2 件に対して 50 万円を交付し、円滑な開催を支援した。なお、開催準備資金の貸付については、実績はなかった。

会議名	開催時期	参加者数	交付額	区分
第 6 回国際ホルモン依存性癌シンポジウム	平成 22 年 9 月	200 名	10 万円	国際
ナノスケールからみたコロイドおよび界面科学に関する国際会議 (NCSS2011)	平成 22 年 9 月	600 名	10 万円	国際
音声言語処理国際会議 (INTERSPEECH 2010)	平成 22 年 9 月	1,300 名	30 万円	国際
合計	—	—	50 万円	—

(参考) 過去のコンベンション開催助成金交付状況

年度	交付件数	交付総額	主な交付会議
17	10	250 万円	第 21 回放射線技師総合学術大会等
18	12	200 万円	第 10 回国際先天代謝異常学会等
19	12	120 万円	第 38 回日本看護学会等
20	2	50 万円	第 13 回国際神経芽種学会等
21	3	50 万円	第 1 回アジア太平洋ヘルスプロモーション健康教育学会等

ウ 主催者のニーズに合わせた開催支援（有償支援含む）の実施（105件）

主催者のニーズに的確に対応した開催支援を実施した。また、一部を有償で実施することにより、当財団の収入確保に努めた。

種 別	件数	内 容
伝統芸能・アトラクション	13 件	太鼓、能、琴、和楽器フュージョン等
コングレスバッグ企画販売	3 件	オリジナルロゴ入りバッグ
千葉県の物産販売手配・斡旋	6 件	千葉県の名産・特産品、伝統的工芸等
インフォメーションの設置	5 件	幕張新都心及び県内案内資料の配布
その他	78 件	幕張オフィシャルマップ、手さげ袋等
合 計	105 件	

エ MICE 支援

県内で開催された MICE では、開催地域と連携し、地域の活性化に結びつくような支援を行った。

種別	会議名（開催時期）	開催地	参加者数	支援メニュー
国内	第 58 回日本 PTA 全国 研究大会 (平成 22 年 8 月)	千葉市	8,000 名	・事前視察同行 ・千葉県の物産手配 等
	第 55 回(社)日本口 腔外科学会総会 (平成 22 年 10 月)	千葉市	2,000 名	・物産手配 ・ビューロー紙袋手配
	第 48 回全国大学保健 管理協会研究集会 (平成 22 年 10 月)	千葉市	1,000 名	・物産展手配 ・パンフレット(千葉の食材)到達の ための支援。(社)千葉県物産協会と の協力体制
	2010 年地方史研究協 議大会 (平成 22 年 11 月)	成田市	400 名	・後援名義手配 ・千葉県観光案内パンフレット等収集
国際	地球惑星科学 連合 2010 大会 (平成 22 年 5 月)	千葉市	4,000 名	・コンベンションボランティア手配 ・幕張ビジョン放映 ・ホテルコンベンションレート設定 ・東京ディズニーリゾートコンベンシ ョンパスポート手配 ・インフォメーションコーナー設置等

種別	会議名（開催時期）	開催地	参加者数	支援メニュー
国際	第2回アジア太平洋成人先天性心疾患学会総会 （平成22年7月）	浦安市	1,000名	<ul style="list-style-type: none"> ・事前視察同行 ・語学ボランティア手配 ・アトラクション手配 ・千葉県の物産販売手配 等
	第25回国際糖質シンポジウム （平成22年8月）	千葉市	1,100名	<ul style="list-style-type: none"> ・事前視察同行 ・語学ボランティア手配 ・文化ボランティア手配 ・アトラクション手配 ・インフォメーションコーナー設置等 ・開催助成金交付 ・開催準備資金貸付（平成20年度貸付） ・公開講座ポスター等配布
	サマーソニック2010 （平成22年8月）	千葉市	12万人	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張メッセ、マリスタジアム、海浜公園等会場及び地元住民等との調整 ・「にぎわい研究会」を中心に「サマソニ前夜祭」を開催
	第6回国際ホルモン依存性癌シンポジウム （平成22年9月）	浦安市	200名	<ul style="list-style-type: none"> ・東京・千葉周辺資料収集 ・開催準備資金貸付（平成20年度貸付） ・開催助成金交付
	ナノスケールからみたコロイドおよび界面科学に関する国際会議（NCSS2011） （平成22年9月）	千葉市	600名	<ul style="list-style-type: none"> ・語学ボランティア手配 ・インフォメーションコーナー設置 ・開催助成金交付 ・ビスビジョン（開催告知放映）手配
	音声言語処理国際会議 （INTERSPEECH2010） （平成22年9月）	千葉市	1,200名	<ul style="list-style-type: none"> ・事前視察同行 ・インフォメーションコーナー設置 ・アトラクション手配 ・開催助成金交付 ・開催準備資金貸付（平成21年度貸付） ・ビスビジョン（開催告知放映）手配 ・コンGRESバック作成

種別	会議名（開催時期）	開催地	参加者数	支援メニュー
国際	ラフェスタ・ミッレミリア（国際公認クラシックカーラリー） （平成 22 年 10 月）	県内 14 市町	約 3,000 名	<ul style="list-style-type: none"> ・事前視察同行 ・通過関連市町・施設全体会議 ・関連市町個別相談 ・県内通過ルート相談 ・開催告知 ・後援名義手配
	プロジェクトマネジメント国際会議 2010（ProMAC2010） （平成 22 年 10 月）	千葉市 浦安市	約 1,200 名	<ul style="list-style-type: none"> ・語学ボランティア手配 ・インフォメーションコーナー設置 ・コンgresバック作成 ・アトラクション手配 ・ビスビジョン手配
	第 7 回アジア太平洋肝臓学会議シングルトップピック （平成 22 年 12 月）	千葉市	800 名	<ul style="list-style-type: none"> ・アトラクション手配 ・手さげ袋、幕張オフィシャルマップ等手配
	水銀に関する条約の制定に向けた政府間交渉委員会第 2 回会合（平成 23 年 1 月）	千葉市	700 名	<ul style="list-style-type: none"> ・観光パンフレット、幕張オフィシャルマップ手配 ・事前 PR 用資料作成

オ 各種ボランティアの活用

語学ボランティアや文化ボランティア等を紹介し、コンベンションの円滑な開催を支援した。

活用内容	件数	人数
語学ボランティアの紹介	4	66
コンベンションボランティアの紹介	1	37
文化ボランティアの紹介	1	6
合計	6	109

カ 幕張オフィシャルマップの作成

当財団の賛助会員を中心に広告・制作協賛金を募り、幕張メッセ、幕張周辺ホテル、企業、レストラン・ショッピング情報等掲載した幕張新都心に関する唯一の総合情報マップ「幕張オフィシャルマップ」（日本語・英語併記）を 15 万部作成した。

2011 年度版は小さく開いただけで交通アクセスを確認できるレイアウトに変更した。

(3) 広報事業

① 広報紙の発行

ア 「Face to Face」の発行

当財団の機関紙として、MICE 情報をはじめ、当財団の活動内容及び千葉県の魅力を積極的にPRした。

(ア) 配布先：賛助会員、主催者、報道機関、他ビューロー

(イ) 発行部数：年2回、各5,000部

63号 (平成22年10月25日発行)	<ul style="list-style-type: none">・専務理事兼事務局長あいさつ・千葉MICEサロン報告・平成21年度事業報告・MICE誘致状況、MICEレポート・新規賛助会員紹介等
64号 (平成23年3月22日発行)	<ul style="list-style-type: none">・千葉ロッテマリーンズ西村監督インタビュー・平成23年度事業計画・千葉県が国際会議開催補助金制度を創設・MICE誘致情報、MICEレポート・紹介、会員交流会・新規賛助会員紹介等

イ 「ぶらりネットCHIBA」の発行

一般向け情報紙として、エリアごとにスポットを当て、MICEのプレ・ポストアトラクションプログラムに役立つ観光や、県内で開催されるイベント情報やMICE情報を紹介し、千葉県の魅力を広くPRした。

千葉県のMICE開催地を代表する「幕張メッセ」の情報充実に努め、また、今年から年間を通じての広告獲得に成功した。

(ア) 発行部数：年6回(奇数月) 各160,000部(Vol.120~125)

(イ) 主要配布先：JR・京成各主要駅、公共施設、県内各自治体、主要ホテル、インフォメーションセンター、賛助会員等

② インターネット事業

ア ホームページ

MICE開催地としての千葉県の魅力や利便性、施設等を主催者や広く一般に対してPRした。

・平成22年度アクセス数：29,903件(平成21年度：29,144件)

また、千葉県へのMICE誘致を促進するため、海外のMICE主催者、参加者等が必要とする情報を容易に得られるよう、ホームページ(英語版)をリニューアルした(公表は平成23年度)。

イ CCB-IC ニュース（賛助会員向けニュース）：6 回発行（随時）

当財団紹介、千葉 MICE サロン、会員交流会、「東京ベイエリア」MICE ガイド（中国語・韓国語）作成、ICCEES 誘致成功等、賛助会員に向けて、ビジネスチャンスにつながる情報、当財団の活動成果を積極的に配信した。

ウ 英文 E-ニュース：6 回発行

成田スカイアクセス、出展展示会、ICCEES 誘致成功、千葉県開催の大規模 MICE 紹介等、海外のメディアや主催者（約 2,500 件）に向けてニュースを配信し、千葉県及び当財団の認知度を高めた。

③ プレスリリースの実施

当財団の活動成果を報道機関に積極的に発表し、広く一般に MICE 誘致の重要性・地域への効果について周知を図った。

ア プレスリリース：5 回実施（日本語及び英語）

- (ア) 「東京ベイエリア」MICE ガイド（中国語・韓国語）作成
- (イ) ICCEES 誘致成功
- (ウ) 幕張オフィシャルマップ 2011（日本語のみ）

イ メディア掲載

- (ア) プレスリリース分：20 件
- (イ) 取材等：7 件（房総の観光資源活用、国際会議誘致戦略、千葉 MICE サロン、会員交流会、フィルムコミッション等）

④ 国内外プロモーション事業

ア 「Chiba MICE Ambassador」の活用（再掲）

イ 海外広告掲載

千葉県への MICE 誘致を促進するため、アメリカの MICE 専門誌 Convene に広告を掲載し、日本及び千葉県をアピールし、千葉県の知名度・イメージアップを図った。

ウ 千葉市幕張観光情報センターの運営協力

幕張新都心の他、県内の観光、MICE 情報を主催者や来葉者に提供し、MICE 開催エリアとしての千葉県の魅力を PR している海浜幕張駅構内に設置された当センター運営に協力した。

⑤ 視察受入れ

主催者、メディア、関係者等の視察を受入れ、千葉県の MICE 受け入れ態勢や千葉県の魅力、MICE 開催地としての優位性を訴えた。

- ・受入回数：主催者 19 回、メディア 1 回、その他 2 回

⑥ 広告収入の確保

財団の刊行物を広告媒体とし、またホテル予約サイトの導入により、当財団の収入確保を図った。

⑦ 異業種交流の促進

当財団の存在意義や活動をPRするほか、賛助会員及び賛助会員加入希望者との異業種交流の場として、会員交流会を開催した。

ア 千葉 MICE サロン (再掲)

イ 会員交流会

- (ア) 開催日：平成 23 年 2 月 4 日
- (イ) 会場：京葉銀行文化プラザ
- (ウ) 参加者数：162 名（うち賛助会員等 147 名）

(4) 受託事業

① フィルムコミッション事業 (千葉県からの受託)

映像産業を通して、千葉県の知名度、情報発信、文化の向上を図り、観光客の来県促進等に寄与するよう千葉県が実施するフィルムコミッション事業を受託し、千葉県のフィルムコミッションの総合窓口として、新しい形の「コンベンションエリア千葉」の情報発信を行った。

ア 平成 22 年度撮影支援実績

内容	電話受付件数	撮影依頼件数		
			うち県内撮影件数	うち撮影立会件数
件数	2,979 件	176 件	39 件	12 件

・主な撮影支援作品：「夏の恋は虹色に輝く」（南房総市他）、「小川の辺」（佐倉市、印西市）、「任侠ヘルパーSP」（富里市）、「タンブリング」（千葉市）、「外交官 黒田康作」（千葉県庁（千葉市））、「ハンチョウ4」（千葉県消費者センター（船橋市））等

イ 平成 22 年千葉県内映画・ドラマ等撮影実績調査の実施

平成 22 年（暦年）県内撮影件数：692 件

ウ 映画・ドラマ等撮影会社訪問セールスの実施（14 か所）

エ 県内撮影地を紹介したパネル展の実施（千葉ポートタワー）

オ ちばフィルムツーリズムのパンフレット及びホームページの管理・運営

カ 市町村フィルムコミッション担当者向けメールマガジンの配信

月 1 回定期配信及び必要に応じて実施。

キ 平成 22 年度フィルムコミッション市町村担当者会議の実施

- (ア) 開催日：平成 22 年 6 月 10 日
- (イ) 会場：千葉市生涯学習センター
- (ウ) 参加者数：37 市町村 45 名

② 千葉ロッテマリーンズかもめ会事業（千葉県からの受託）

千葉県から千葉ロッテマリーンズかもめ会事業を受託し、千葉県経済界として、次の支援と応援事業を実施することにより、球団の発展、強化に寄与した。

ア 激励観戦会

(ア) 開催日：平成 22 年 7 月 30 日、9 月 16 日

(イ) 参加者数：延べ 400 名

イ 日本シリーズ特別応援観戦

(ア) 開催日：平成 22 年 11 月 2 日

(イ) 参加者数：105 名

ウ 役員会・総会・会員の集い

(ア) 開催日：平成 22 年 11 月 29 日

(イ) 参加者数：約 150 名

エ 石垣島春季キャンプ激励ツアー

(ア) 開催日：平成 23 年 2 月 17 日～19 日

(イ) 参加者数：18 名

オ 横断幕等の設置、協賛等

③ 誘致事業、支援事業に関連する事業の積極的な受託

ア 千葉県 KOTFA2010 事業の補助

(ア) 開催期間：平成 22 年 6 月 2 日～6 日

(イ) 会場：「第 23 回韓国国際観光展（KOTFA）」（韓国ソウル市）

(ウ) 事業内容：「千葉県独自の商談会&交流会」と観光展出展のブース運営に係る業務の補助を行った。

イ 「VISIT JAPAN トラベルマート 2010」参加支援業務（千葉県からの受託）

(ア) 開催期間：平成 22 年 11 月 25 日～26 日

(イ) 会場：幕張メッセ国際展示場

(ウ) 事業内容：千葉県及び千葉県観光関係者と海外の観光事業者との商談成功に向け、必要な支援を行った。

ウ 外国人向け観光マップ「Map of Chiba」の情報修正業務（千葉県からの受託）

(ア) 事業内容：国際会議・国際観光展の海外プロモーション及び来県外国人への PR 用として作成した平成 21 年度版の外国人向け観光マップの情報を修正した。

(イ) 作成部数：英語（10,000 部）、中国語（簡体字・繁体字）（各 4,000 部）、韓国語（5,000 部）

2 国際交流部門

(1) 国際交流・国際協力・多文化共生社会づくりの中核的組織としての機能の強化

① さまざまな情報の提供

ア 生活情報等の提供

インターネットを活用した情報収集を行うとともに、千葉県国際交流センターのホームページに、国際交流ボランティア制度や各種相談事業、在住外国人のための生活情報、県内の民間国際交流・協力団体や日本語教室に関するデータベース等の情報を掲載した。

イ 「国際交流伝言板」による交流事業の情報提供

県内の国際交流・協力団体や行政機関の事業（イベント開催、参加募集等）を取りまとめ、「国際交流伝言板」（年3回：日本語版各2,200部、英語各1,300部、中国語各1,100部、スペイン語版各1,100部）として、賛助会員等に情報提供した。

また、団体等からのボランティア募集を掲載した「ボランティア募集！伝言板」を発行した（年3回：日本語各2,200部）。

ウ 会報「国際交流つうしん」の発行

千葉県国際交流センターの事業や民間団体等を紹介し、国際交流・協力活動への意欲を高めるため、賛助会員、市町村国際交流協会、民間団体、公民館、図書館、市町村等を対象として会報を発行した（年3回：各10,000部発行）。

エ 千葉県外国人学生住居アドバイザー事業

外国人学生の住居確保を支援するため、千葉県と連携し、また、社団法人千葉県宅地建物取引業協会及び社団法人全日本不動産協会千葉県本部の協力を得て、住宅に関する情報提供・助言を行った。

・アドバイザー：39店

オ リーフレットの作成

千葉県国際交流センターの事業について周知するため、リーフレット（3,000部）を作成した。

カ 展示会への出展

国際交流ボランティア制度をはじめ、千葉県国際交流センター事業を紹介するため、展示会への出展を行った。

(ア) 開催日：平成22年4月19日

(イ) 展示会名：「TO THE NEXT 2010」

（主催：サンケイリビング新聞社千葉本部）

(ウ) 会場：ホテルニューオータニ幕張

② 在住外国人支援事業

ア 外国人テレホン相談事業（千葉県からの受託）

外国人県民が安全で快適な生活を送ることができるよう、総合的な相談窓口として外国人テレホン相談事業を千葉県から受託した。

(ア) 対象言語：

英語（週5日）、スペイン語（週3日）、中国語（週1日、半日）

(イ) 相談件数：1,038件

(ウ) 会議の開催：平成22年度外国人テレホン相談中国語通訳連絡会議

（平成23年3月30日）

イ 在住外国人のための無料法律相談

在住外国人が地域社会で日常生活を送る際に抱える法律的な問題解決を支援するため、千葉県弁護士会・千葉県行政書士会と連携して無料法律相談を行った。

(ア) 開催日：平成22年4月5日、5月10日、6月7日、7月5日、8月2日、
9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、平成23年2月7日、
3月7日 計11日

(イ) 会場：千葉県国際交流センター研修室

(ウ) 参加者数：延べ39名

ウ 在住外国人のための無料総合相談会

弁護士、行政書士、社会保険労務士、税理士による在住外国人向けの総合相談を船橋市との共催により実施した。

(ア) 開催日：平成23年1月22日

(イ) 会場：船橋市中央公民館

(ウ) 参加者数：延べ25名

エ サバイバル日本語講座

日本に来て間もない外国人児童・生徒や在住外国人のため、短期集中による日本語講座として、「サバイバル日本語講座」を地域住民や学生等の協力を得て開催した。

(ア) 開催日：平成22年8月23日～25日（市川市立第7中学校）

平成22年8月24日～26日（八千代市村上公民館）

(イ) 内容：夏休み集中による日本語学習会を市川市国際交流協会、八千代市国際交流協会との共催により実施。

オ 地震・台風・火事の体験ツアーの実施（千葉県からの受託）

在住外国人の防災意識を啓発するため、千葉県西部防災センターを語学ボランティアと共に見学する「地震・台風・火事の体験ツアー」を千葉県から受託した。

また、千葉県警と協力して、シートベルト体験車等を用いた交通安全意識の啓発を図った。

(ア) 開催日：平成 22 年 10 月 31 日

(イ) 会場：千葉県西部防災センター

(ウ) 参加者数：在住外国人及びその家族、ボランティア 計 25 名

カ 国際交流・協力・多文化共生啓発行事の開催

一般県民を対象に、国際交流や国際協力、多文化共生の大切さや団体の活動状況等について周知するため、「国際協力パネル展 ―地球市民になろう―」及び「平成 22 年度グローバルフェスタ Chiba」を、千葉県、JICA（独立行政法人国際協力機構）地球ひろば、（財）日本ユニセフ協会千葉県支部との共催により開催した。

(ア) 国際協力パネル展 ―地球市民になろう―

a 開催日：平成 22 年 6 月 29 日～7 月 5 日

b 会場：そごう千葉店

c 内容：国際協力活動や世界の現状を紹介したパネル展

(イ) 平成 22 年度グローバルフェスタ Chiba

a 開催日：平成 23 年 2 月 6 日

b 会場：千葉大学

c 参加者数：約 1,100 人

d 内容：

(a) 講演（国際理解講座） 「世界の一員として、今私たちにできること」
講師 池田香代子（ドイツ文学翻訳家）

(b) 国際協力バザー、国際交流・協力活動紹介ブース、JICA コーナー、ユニセフのつどい 他

キ 多文化共生サポート制度の創設と運営

医療、福祉、教育、災害等、緊急の生活支援を要する在住外国人に対し語学ボランティアなどを派遣する、多文化共生サポート制度を創設し、その広報を行うとともに派遣要請に応じ紹介を行った。

また、必要に応じてボランティア活動費や保険料の負担を行った。

・紹介件数：6 件

(2) 多文化共生時代のネットワークづくり

① ボランティア制度等の運営

ア 国際交流ボランティア制度の運営

国際交流事業にボランティアとして積極的に参加を希望する県民を登録し、活動の場を紹介した。

また、日本語ボランティアの登録を開始した。

(ア) 語学ボランティアの登録・紹介

a 登録者数：967名（平成23年3月31日現在）

b 紹介件数：32件（延べ119人）（多文化共生サポート制度該当分を含む）

(イ) ホストファミリーボランティアの登録・紹介

a 登録者数：350家庭（平成23年3月31日現在）

b 紹介件数：2件（16家庭）

(ウ) 文化ボランティアの登録・紹介

a 登録者数：255名（平成23年3月31日現在）

b 紹介件数：2件 紹介ボランティア数：延べ10名（5団体）

(エ) 日本語ボランティアの登録（新規）

a 登録者数：64名（平成23年3月31日現在）

（参考）過去の国際交流ボランティア数の推移（各年3月31日現在）

種別	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
語学（人）	891	863	941	899	949
ホストファミリー（家庭）	377	376	375	368	358
文化（人）	275	265	270	260	257
日本語（人）	-	-	-	-	-
計（延べ）	1,543	1,504	1,586	1,527	1,564

② ボランティア育成・国際理解促進のための各種講座

ア 日本語ボランティア養成のための講座

在住外国人に日本語を教えながら交流しようとするボランティアに対し、必要な知識と素養について学び、話し合う場として「日本語ボランティアのための講座」を、日本語ボランティアが比較的少ない千葉県南部で実施した。

(ア) 名称：「日本語ボランティアのための講座 in 君津」

(イ) 開催日：平成22年10月7日～11月25日（全8回）

(ウ) 会場：君津市生涯学習交流センター

君津市立中央図書館地域情報センター

(エ) 講師：高柳和子（TIJ 東京日本語研修所）

(オ) 参加者数：22名

イ 日本語ボランティア・スキルアップ講座

日本語ボランティア活動者に対し、更なる資質向上を目指す講座を開催するとともに、ボランティア相互のネットワークづくりを図った。

- (ア) 開催日：平成 22 年 6 月 14 日～7 月 7 日（全 5 回）
- (イ) 会場：千葉県国際交流センター研修室
- (ウ) 講師：伊東祐郎（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）
宮崎妙子
（武蔵野市国際交流協会日本語学習支援コーディネーター）
稲葉和栄（神田外語大学留学生別科非常勤講師）
矢部まゆみ（国立国語研究所非常勤プロジェクト研究員）
谷 啓子（東京女子大学・立教大学非常勤講師）
- (エ) 参加者数：41 名

ウ コミュニティ通訳研修

在住外国人の増加に伴う通訳者需要に対応し、ボランティア通訳としての資質向上を図ることを目的に、行政サービスの基礎的知識を学ぶ研修を実施した。

- (ア) 開催日：平成 22 年 11 月 8 日、15 日、22 日、29 日
- (イ) 会場：千葉県国際交流センター研修室
- (ウ) 講師：廣瀬理夫（千葉県弁護士会）
大和田高道（入管協会）
田島 光（千葉県社会保険労務士会）
榎戸祐児（千葉県児童家庭課）
神林綾子（千葉県児童家庭課）
宇田川政男（ファミリーセンター・ヴィオラ）
- (エ) 参加者数：48 名
- (オ) 内容：渉外戸籍、在留資格と外国人登録、社会保険制度、母子福祉、母子保健、通訳の基礎トレーニングとロールプレイ、相談窓口からの事例報告

エ 国際理解促進講座

県民の国際意識を高めるとともに国際交流・協力活動を行う個人・団体、ボランティア等にも有用となる国際理解促進講座を「平成 22 年度グローバルフェスタ Chiba」の中で実施した。

- (ア) 開催日：平成 23 年 2 月 6 日
- (イ) 会場：千葉大学
- (ウ) 参加者数：230 名
- (エ) 講師：池田香代子（ドイツ文学翻訳家）
- (オ) 内容：「世界の一員として、今私たちにできること」

オ 大学生・高校生向け国際理解セミナー

(ア) 高校生のための国際理解セミナー

高校生が外国の文化や考え方等を理解するための講座を実施した。

- a 開催日：平成 22 年 8 月 16 日
- b 会場：千葉県立鴨川青年の家
- c 講師：齋藤雅治（NPO 法人ピースウィンズ・ジャパン）
- d 参加者数：76 名（うち高校生 47 名）
- e 内容：「考えてみよう！今世界で起こっていること

～東ティモールでの NGO による支援活動をとおして～」

(イ) 大学生のための国際理解促進講座

大学生等が海外の状況を理解しながら、異文化理解や国際協力等への意識を高めるための講座を、千葉大学教育学部及び JICA 地球ひろばとの共催により実施した。

- a 開催日：平成 22 年 11 月 27 日
- b 会場：千葉大学教育学部 4 号館 4105 教室
- c 講師：浜野道博（日本ユーラシア協会常任理事）
サマコワ・イバラット（日本キルギス人協会代表）
- d 参加者数：58 名
- e 内容：
 - (a) 講演「中央アジアの多民族共存」「キルギス共和国の現状と教育」
 - (b) パネルディスカッション、民族楽器演奏、民族料理試食

カ ちば出前講座

JICA と連携して、JICA ボランティア経験者や在住外国人を登録し、学校・公民館などに派遣し、国際協力や異文化理解等に関する県民への啓発を図った。

- (ア) 登録者数：172 人（うち JICA 関係者 51 人）（平成 23 年 3 月 31 日現在）
- (イ) 件数：31 件
- (ウ) 派遣講師：延べ 34 人（うち JICA 関係者 19 人、在住外国人 15 人）
- (エ) 受講者数：4,305 人

③ ネットワークの「場」の提供

ア 国際交流サロンの提供

県民による国際交流・協力のための活動や交流の場として、国際交流センターサロンや研修室の無料貸出し等を行った。

- ・研修室利用累計：100 回、564 人

イ メーリングリストによる情報交換

メーリングリストを通じ、国際交流等に関する情報交換を促進した。

- ・参加者数：406 名（平成 23 年 3 月 31 日現在）

ウ 国際交流・協力団体の情報交換・意見交換の場づくり

(ア) 国際交流・協力等連絡会議

市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当課等が、情報交換や意見交換を図るための会議を開催した。

- a 開催日：平成22年6月3日
- b 会場：千葉県文書館6階多目的ホール
- c 参加者数：54名
- d 内容：
 - (a) 千葉県の国際化施策について
 - (b) JICA事業について
 - (c) 外国人雇用対策について（千葉労働局職業対策課）
 - (d) （財）ちば国際コンベンションビューロー 第3次中期計画及び平成22年度事業計画について
 - (e) 情報交換及びPR 6団体が発表

(イ) 外国人相談担当者意見交換会

市町村や国際交流協会等における在住外国人への相談担当者が、資質向上や情報交換を図るための会議を開催した。

- a 開催日：平成22年7月23日
- b 会場：千葉県国際交流センター研修室
- c 講師：山中真理（千葉県女性サポートセンター）
- d 参加者数：21名
- e 内容：
 - (a) 講義「ドメスティック・バイオレンス被害者支援について」
 - (b) 市町村・市町村協会外国人相談窓口開設の現況について、情報交換

(ウ) 外国人の子どものための日本語学習支援ボランティアの集い

日本語を母語としない子どもへの学習を支援するための講義・演習や意見交換などを通じて、日本語学習支援ボランティアによる活動の充実とネットワークづくりを促進するための会議を、千葉県教育委員会とともに開催した。

- a 開催日：平成23年2月27日
- b 会場：千葉市文化センター
- c 講師：井上恵子（千葉県教育委員会委嘱研究員）
谷 啓子（東京女子大学・立教大学非常勤講師）
- d 参加者数：44名

- e 内 容：
 - (a) 説明「千葉県内の帰国・外国人児童生徒の受入れ状況について」
 - (b) 講義・演習「子どもへの日本語指導」
 - (c) 講話「支援の実際～外国につながる子どもたちのために」
 - (d) 意見交換会

エ 各種関係機関・団体との連携

- (ア) 法人・任意団体の構成員としての参加

次の法人又は任意団体の構成員（理事、評議員）として、国際交流・国際協力の推進に参画した。

 - a (財) 千葉市国際交流協会
 - b (財) 日本ユニセフ協会千葉県支部
 - c 幕張インターナショナルスクール
 - d 千葉ウイスコンシン協会
- (イ) 関係機関との情報交換等

次の会議等において、関係機関と情報交換・意見交換等を行った。

 - a 地域国際化交流協会連絡協議会総会（地域国際化交流協会連絡協議会）
 - b 関東地域国際化協会連絡協議会情報交換会・作業部会（関東地域国際化協会連絡協議会）
 - c 9 都県市外国人相談企画研究会
 - d 外国人県民懇談会 in やちよ（千葉県国際室）
 - e 多文化共生社会づくりネットワーク会議（千葉県国際室）
 - f 平成 22 年国勢調査千葉県協力者会議（千葉県統計課）
 - g 外国人児童生徒受入体制整備研究会（千葉県教育委員会）
 - h 八千代市外国人集住地域総合対策連絡協議会（八千代警察）
 - i 地域の外国人とともに暮らすために～地域参加のための日本語学習支援運営委員会（船橋市国際交流協会） 他
- (ウ) イベントへの参加協力

次のイベントにパネリスト、審査員として参加した。

 - a 神田外語大学留学生別科 10 周年シンポジウム（神田外語大学）
 - b 平成 22 年度英語・日本語弁論大会（千葉県高等学校教育研究会国際教育研究部会） 他
- (エ) インターンシップの受入れ

学生の職業意識の向上及び国際交流・協力に関する理解促進を図るため、県内の大学から 3 名の学生を受け入れた。
- (オ) 後援名義による支援

県内の国際交流団体等が実施する 12 件の国際交流関係事業に対し、後援名義の使用承認を行った。

3 庶務事項

(1) 組織

① 理事会・評議員会・監事

寄附行為に従い、議決機関として理事会・評議員会を、業務及び予算執行の監査機関として監事を設置している。

平成 23 年 3 月 31 日現在、理事 27 名・評議員 37 名・監事 3 名が就任している。

<理事会・評議員会・監査の開催経過>

会 議	開催日・会場	議 題
第 1 回理事会	平成 22 年 5 月 26 日 三井ガーデンホテル千葉	1 平成 21 年度事業報告及び収支決算（案）について 2 評議員の選任について
第 2 回理事会	平成 22 年 12 月 22 日 三井ガーデンホテル千葉	1 平成 22 年度第 1 回補正予算（案）について 2 財団法人ちば国際コンベンションビューロー処務規程の一部改正（案）について 3 評議員の選任について 4 財団法人ちば国際コンベンションビューローにおける最初の評議員の選任方法（案）について 5 財団法人ちば国際コンベンションビューロー最初の評議員選定委員会運営規程の制定（案）について
第 3 回理事会	平成 23 年 3 月 10 日 三井ガーデンホテル千葉	1 平成 23 年度事業計画及び予算（案）について 2 財団法人ちば国際コンベンションビューロー組織規程の一部改正（案）について 3 財団法人ちば国際コンベンションビューロー職員給与規程の一部改正（案）について 4 財団法人ちば国際コンベンションビューロー経理規程の一部改正（案）について 5 財団法人ちば国際コンベンションビューロー処務規程の一部改正（案）について 6 財団法人ちば国際コンベンションビューロー会員規程の一部改正（案）について 7 財団法人ちば国際コンベンションビューロー寄附行為の一部改正（案）について 8 評議員の選任について

第1回評議員会	平成22年5月24日 ホテルポートプラザちば	1 平成21年度事業報告及び収支決算(案)について 2 理事及び監事の選任について
第2回評議員会	平成22年12月20日 ホテルポートプラザちば	1 平成22年度第1回補正予算(案)について 2 財団法人ちば国際コンベンションビューロー処務規程の一部改正(案)について 3 理事の選任について 4 財団法人ちば国際コンベンションビューローにおける最初の評議員の選任方法(案)について 5 財団法人ちば国際コンベンションビューロー最初の評議員選定委員会運営規程の制定(案)について
第3回評議員会	平成23年3月9日 ホテルポートプラザちば	1 平成23年度事業計画及び予算(案)について 2 財団法人ちば国際コンベンションビューロー組織規程の一部改正(案)について 3 財団法人ちば国際コンベンションビューロー職員給与規程の一部改正(案)について 4 財団法人ちば国際コンベンションビューロー経理規程の一部改正(案)について 5 財団法人ちば国際コンベンションビューロー処務規程の一部改正(案)について 6 財団法人ちば国際コンベンションビューロー会員規程の一部改正(案)について 7 財団法人ちば国際コンベンションビューロー寄附行為の一部改正(案)について 8 理事及び監事の選任について

監 査	開催日	議 題
平成21年度監査	平成22年5月17日 千葉県国際交流センター 研修室	業務監査 会計監査

② 賛助会員組織

平成 23 年 3 月 31 日現在のコンベンション会員数は 357 会員（前年度末と比べて 12 会員減）、国際交流会員数は 694 会員（前年度末と同数）であり、その内訳は、次のとおりである。

コンベンション会員 団体会員 355 団体 個人会員 2 人
 国際交流会員 団体会員 99 団体 個人会員 595 人

ア 平成 22 年度新規加入賛助会員

(ア) コンベンション会員 (入会順)

1	パールプラザ
2	東京湾横断道路株式会社
3	富士電機システムズ株式会社
4	株式会社パソナ
5	株式会社京成エージェンシー
6	株式会社茂原アテックス
7	株式会社 OFC
8	京成ビルサービス株式会社
9	有限会社クリフラップ
10	株式会社アイ・エス・エス
11	株式会社 ASPE
12	株式会社千葉正直屋

(イ) 国際交流会員 団体会員 2 団体、個人会員 64 人

(参考) 過去の賛助会員数の推移（各年 3 月 31 日現在）

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
賛助会員数	1,160	1,084	1,122	1,070	1,063
コンベンション	359	356	366	380	369
団体会員（団体）	354	351	362	376	367
個人会員（人）	5	5	4	4	2
国際交流	801	728	756	690	694
団体会員（団体）	106	102	103	102	102
個人会員（人）	695	626	653	588	592

③ 事務局

平成 23 年 3 月 31 日現在の事務局体制は、専務理事以下 25 名（嘱託 7 名含む）である。

(2) 内部管理体制の確立とコンプライアンスへの取組み

職員、嘱託職員に係る規定等の整備を次のとおり行った。

① 平成 22 年 4 月 1 日改正

規程等名称	主な改正内容等
組織規程	組織体制の変更
経理規程	契約の履行確認に係る条項を追加
旅費規程	宿泊料を定額制から上限額を設定した実費弁償へ変更するとともに海外出張における支度料を廃止
職員の再雇用に関する規程	勤務時間短縮及び給与額引き下げ
嘱託等取扱要綱	通訳秘書に関する条項を整備

② 平成 22 年 12 月 1 日改正

規程等名称	主な改正内容等
職員給与規程	給与月額及び期末・勤勉手当支給率の引き下げ
職員の再雇用に関する規程	給与月額及び期末・勤勉手当支給率の引き下げ

③ 平成 23 年 1 月 1 日改正

規程等名称	主な改正内容等
処務規程	専決事項の見直し、起案用紙の改正（公印使用確認欄の追加）

④ 平成 23 年 2 月 28 日制定

規程等名称	主な制定内容等
最初の評議員選定委員会運営規程	最初の評議員選定委員会の運営に関する必要事項を規定

⑤ 平成 23 年 3 月 10 日改正

規程等名称	主な改正内容等
経理規程	勘定科目の追加

(3) 公益財団法人への移行準備

- ① 平成 23 年 2 月 28 日に最初の評議員の選任方法について、関東運輸局長及び千葉県知事から認可を得た。
- ② 平成 23 年 3 月 10 日の理事会において、公益財団法人移行後の定款（案）について承認を受けた。

(4) 不適正経理処理問題への対応について

① 経緯

平成 21 年 10 月に千葉県からの調査要請に基づき、当財団において、消耗品支出について調査したところ、不適正な経理処理が確認された。

- ア 対象団体 千葉県公社等運営協議会を構成する団体及び県が 25%以上出えん又は出資している団体 41 団体
- イ 対象年度 平成 15 年度から平成 20 年度までの 6 年間。
- ウ 調査手法 各団体において 6 年間で 120 万円以上の支出先である事務機器業者の帳簿を入手し、各団体の支出伝票等と突合した。

② 現在までの千葉県における公表の状況について

不適正な経理処理の状況については、千葉県から次のとおり公表されている。

- ア 平成 22 年 5 月 28 日
公社等外郭団体における経理調査の結果について
- イ 平成 22 年 8 月 27 日
公社等外郭団体における不適正経理処理額の取扱について

③ 現在までの千葉県からの指導通知について

当財団の不適正な経理処理に対して、千葉県から次のとおり指導を受けている。

- ア 平成 22 年 5 月 28 日付け経第 177 号 千葉県商工労働部経済政策課長通知
「公社等外郭団体における適正な経理処理の徹底について」
 - (ア) 不適正な経理処理への対応
 - (イ) 県の補助金等へ対応
 - (ウ) 改善策・再発防止策に係る指導
 - (エ) 指導・監督の強化
- イ 平成 22 年 9 月 14 日付け経第 470 号 千葉県商工労働部長通知
「公社等外郭団体における不適正処理額の取扱いについて」
 - (ア) 県支出金（県補助事業及び委託事業）の返還
 - (イ) 団体職員による団体への返還
 - (ウ) 国庫補助金の返還
 - (エ) 業者プール金の返還
 - (オ) 改善策・再発防止策の報告

④ 不適正経理処理額の内容について

不適正経理処理額 2,431,549 円 (推計額※ 567,146 円を含む)

返還対象額 827,257 円 (①+②)

『不適正』の分類			不適正経理 処 理 額 (円)	返 還 の 率	職員への処分	
分類	考え方	例示			管理 監督者	担当 者
a	「翌年度納入」「前年度納入」「先払い」など支出伝票（消耗品等）の内容と同じ物品等であるが、経理処理として不適正なもの	消耗品 全般	1,604,292	0%	嚴重 注意	嚴重 注意
b	支出伝票（消耗品等）の内容とは異なる物品等として、業務に使用する消耗品等が納入されているもの	消耗品 全般	189,113①	10%	文書 訓告	文書 訓告
c	支出伝票（消耗品等）の内容とは異なる物品等として、団体としての支出が可能な他の支出科目の物品（備品等）が納入されたもののうち、現物等を確認できるもの（複数の者による廃棄又は費消の証言があるものを含む）	業務用 パソコン、 デジタルカメラ など	638,144②			

※推計額とは、事務機器業者に平成 15 年度及び 16 年度の一部の帳簿がなく、当財団の支出伝票と突合ができなかったため、不適正経理処理額を推計したものである。

⑤ 対応について

ア 千葉県及び千葉市への返還金について

不適正経理処理額のうち返還対象額 827,257 円の中には、千葉県又は千葉市からの補助金等を財源としているものがあるため、下記に記載した額を返還した。

(ア) 千葉県への返還額 50,500 円 (平成 23 年 1 月 7 日返還)

(イ) 千葉市への返還額 11,400 円 (平成 23 年 2 月 4 日返還)

イ 職員等であった者による財団への返還協力金について

千葉県の取扱いに準じて、返還対象額 827,257 円の 10%である 82,726 円については、過去に当財団の専務理事、事務局長、コンベンション（事業）部長、千葉県国際交流センター長であった 10 名の方々から返還協力金として協力いただき、全額補てんすることができた。

なお、収入した返還協力金は、千葉県及び千葉市への返還金の財源とした。

（参考）役職別一人当たり返還協力金額（単位：円）

役職名	専務理事（1名）	事務局長（3名）	コンベンション（事業）部長（2名） 千葉県国際交流センター長（4名）
負担額	34,726	10,000	3,000

ウ 職員等の処分について

対象期間中、管理監督者であった者 1 名、担当者であった者 1 名、計 2 名を文書訓告とした。

エ 理事会及び評議員会への報告について

- (ア) 平成 22 年度第 2 回理事会（平成 22 年 12 月 22 日開催）、同第 2 回評議員会（平成 22 年 12 月 20 日開催）において、不適正経理処理問題の概要、対応及び改善策・再発防止策について報告した。
- (イ) 平成 22 年度第 3 回理事会（平成 23 年 3 月 10 日開催）、同第 3 回評議員会（平成 23 年 3 月 9 日開催）において、千葉県及び千葉市への返還金について、その返還が終了したこと、当財団への返還協力金について、全額返還に協力いただいたことを報告した。

⑥ 改善策・再発防止策について

次のとおり改善策・再発防止策を実施し、千葉県に対して報告した。

項目	実施状況
ア 職員の意識改革	(ア) 朝礼で専務理事から職員に対し、コンプライアンスの意識徹底について講話を行った（平成 22 年 6 月 1 日）。 (イ) 職員のコンプライアンス意識向上のための研修会を開催した（平成 22 年 11 月 16 日）。
イ 検査方法の改善	(ア) 経理規程に契約内容の履行確認を行う旨を規定。 (イ) 各部長、千葉県国際交流センター長を検査職員に指定。 (ウ) 検査職員は、現物との照合を行い、検査調書の作成又は検査済の旨を自書押印することとした。 (以上 平成 22 年 4 月 1 日～) (エ) 納品書を支出伝票に添付することとした。 (平成 22 年 6 月 7 日～)
ウ 物品調達等の改善	(ア) 支出決裁とは別に、執行伺いを実施することとした。 (平成 22 年 6 月 7 日～) (イ) 平成 23 年度予算編成において、必要な備品類については、適切な支出科目へ予算計上した（平成 22 年 8 月 11 日～）。 (ウ) 処務規程を改正し、専決事項に予算の執行を加え、執行伺いの実施を規定上、明確化した（平成 23 年 1 月 1 日～）。 (エ) カ(ア)を再掲。
エ 内部牽制の強化	(ア) 処務規程の起案用紙を改め、公印使用確認欄を設け、公印を使用する文書の内容を確認した上で、公印使用させることとした（平成 23 年 1 月 1 日～）。 (イ) イ(ア)～(エ)、ウ(ア)～(ウ)並びにカ(ア)、(イ)を再掲。
オ 風通しの良い職場環境の整備	(ア) 各部又は課、千葉県国際交流センター単位で管理職及び職員が参加するミーティングを充実。
カ 予算執行等の見直し	(ア) 柔軟な予算執行ができるよう、予算流用手続きを明確にした（平成 22 年 7 月 20 日～）。 (イ) 経理規程を改正し、現金の取扱いに関する責任の明確化を図った（平成 23 年 4 月 1 日～）。
キ コンプライアンス意識の徹底	(ア) 専務理事、各部長、千葉県国際交流センター長及び各課長が出席する朝ミーティングにおいてコンプライアンス意識の徹底を図った（平成 22 年 5 月 31 日、8 月 30 日）。 (イ) 千葉県公社等運営協議会主催の「公社等コンプライアンス研修」に総務部長が参加（平成 22 年 10 月 4 日）。 (ウ) ア(ア)及び(イ)を再掲。